

「ナージャの村」「アレクセイと泉」本橋成一監督作品

# アラヤシキ の 住人たち



プロデューサー 大槻貴宏 撮影 一之瀬正史 2015年/117分



世界はたくさん、人類はみな他人。

## 上映会をしませんか？

山道の向こうにふとあらわれる小さな村。そこに住むちょっと風変わりな人たちの、春から春への暮らしを映したドキュメンタリー。



共働学舎とは

### 競争社会よりも協力社会を

1974年、長野県北安曇郡小谷村立屋に「競争社会ではなく、協力社会を」という理念の元、社会で弱い立場にある人たちもそうでない人も、農業・酪農・工芸などを基礎として共に働き、自立した生活を目指す場所として宮嶋眞一郎らによって設立された。身体的、精神的、さまざまな境遇の差異を持つ人たちが、自分の得意とすること、苦手とすることを担い合いあい、人間一人一人が持つ個性や能力を尊重しあって暮らしている。

撮影地

長野県小谷村・真木集落

### 山道を1時間半歩いた車の通わない集落の “生きものとしての人間の時間”

廃村となった後の真木集落で、村人たちが代々使ってきた畑や田んぼを受け継ぎ、スタートした共働学舎。ひととき立派な茅葺きの家「アラヤシキ（新屋敷）」に20代～60代の男女十数人が、犬や猫、ヤギや鶏などの動物たちと共に暮らしている。農業を基本にした日々では、季節ごとの自然の時間の流れが暮らしの中心になっている。草木や鳥たち、生きものたち、それぞれの人たちの個性あふれるリズムがあり、便利さやモノが溢れる暮らしのなかで見失っている“生きものとしての人間の時間”を思い起こさせる。

あなたという人は地球始まって以来、絶対いなかったはずですよ。  
あなたという人は地球が滅びるまで出てこないはずなんです。  
わたくしはそう思っています。 ———— 宮嶋眞一郎

宮嶋眞一郎（1922年-2015年）

中学より羽仁吉一、もと子創立の自由学園にて学ぶ。卒業後自由学園の英語教師となり、生徒と生活を共にしながら31年間を過ごす。50歳のとき退職し心身にハンディのある人たちとの生活「共働学舎」を始める。



監督のことは

### 相手を認めるということ

アラヤシキには個性たっぷりの面々が住んでいます。突然歌いだす人、動きがとてもゆっくりな人、わけのわからない言葉でしゃべる人。実は彼らのような人が近くにいることがとても大切なことなんじゃないかと思っています。夫婦だって、恋人同士だって、学校だって、会社だって、国だって、違いがあることを知った上で相手を認めるっていうのはとても大切なことですよね。それが共働学舎には当たり前にあるんです。

本橋成一（写真家・映画監督）

1968年初の写真集『炭鉱（ヤマ）』で第5回太陽堂受賞。以後サーカス、上野駅、魚河岸、大衆芸能、屠場など、市井の人々の生きざまを撮り続ける。1997年チェルノブイリ原発事故で汚染地域となったベラルーシの村に暮らす人々を撮影したドキュメンタリー映画「ナージャの村」を初監督。共働学舎創設者宮嶋眞一郎は自由学園在学中の恩師であり、卒業以降も交流を続けてきた。

時間がゆったりと流れてゆき、  
その中で観客は人生について、社会について、  
更にこの国について想いをめぐらせる。  
心を豊かにしてくれる作品です。

山田洋次（映画監督）

